

## 平成29年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成30年3月30日

報告者	学科名	デザイン工学科	職名	教授	氏名	金丸 敏彦
研究課題	デジタルファブリケーションを活用した地域活動支援の調査研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	金丸敏彦	デザイン学部・教授	製品デザイン	総括	
	分担者	嘉数彰彦 三木裕紀	デザイン学部・教授 瀬戸内市集落支援員	映像デザイン 地域活性化	情報収集及び編集 地域活性化支援	
研究実績の概要	<p>岡山県立大学において、地域に開かれたデジタルファブリケーション「ものづくり工房」の構築を目的とした。</p> <p>ものづくり情報のオープン化が進み、ネットワークを活用したグローバルな協働活動が可能となっている。地元ローカルな視点とグローバルな視点を融合させた構造が可能な環境だといえる。</p> <p>地域の資源（ヒト、モノ、コト）を地域の人々と共にデジタルファブリケーション技術を活用し、ものづくり公開講座などで学生と地域市民が集い、学生と共に学び、共に考え、共に製作する、市民型協働システムの試験調査研究を行った。</p> <p>地域活動の支えとなるモノづくりを通じ「つくる文化」や「つくる技術」を広めていくことを目的に拠点2017年4月 FabLab Setouchi<math>\beta</math> 備前福岡郷土館の協力を得て、郷土の歴史と共に「ものづくり、人づくり」の取り組みを行った。</p> <p>研究方法</p> <p>① 地域と密着した project：コミュニティーの強化。</p> <p>② 地域資源の活用 project：資源の掘りおこし。</p> <p>③ ものづくりを通じた project：付加価値、新たな創造性を育てる。</p> <p>Lab を運営している瀬戸内市集落支援員の三木氏と共に活動しながら、地域におけるデジタルファブリケーションの可能性を課題の調査を行った。</p> <p>デザイン学部3年生4名と共に実験的な活動を行った。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>計画</p> <p>4月 備前瀬戸内市の調査 5月 調査及び分析 6月 地域市民との話合い 7月 市民参加のワークショップ 8月 成果検討 9月 ワークショップ 10月 成果検討 11月 公開講座 12月 成果検討 3月 瀬戸内市長へ1年間の活動報告会を開催</p> <p>岡山県立大学において、地域に開かれたデジタルファブリケーションシステム (FabCafe OPUβ) の構築を早急に進める必要がある。</p> <p>FabLab (fabrication laboratory) / FabCafe ファブラボは、自らの必要性や欲求に応じて、「もの」を自分(たち)自身で作り出せるようになるような社会をビジョンとして掲げている。「ファブ」には、「Fabrication」(ものづくり)と「Fabulous」(楽しい・愉快的)の2つの単語がかけられている。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>瀬戸内市長へ1年間の活動報告会プレゼン ワークショップポスター、リーフレット</p>